



EX-PRESS

EXtra, EXpert and EXtreme

2005 Vol.

7



JSB 1000
All JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

Photo by Y.Harada/H.Wakita(c)

秋吉耕佑、2戦連続ポールポジション獲得! 伊藤真一のタイトル獲得を阻止できるか!!

他の3クラスより1戦多い、全8戦で戦われているJSBクラスは、岡山国際サーキットでの第7戦、そして最終戦のツインリンクもてぎで、今シーズンは終了となる。ここまでの6戦、伊藤真一(ホンダドリームRT)が4勝をマーク、2位1回、4位1回というすばらしい成績でぶっちぎりのランキングトップ。トータルポイント110点で、2位の辻村猛(F.C.C.TSR)を28点も引き離している。この岡山大会でタイトルが決まる可能性もある。その辻村は、2位1回、3位2回など全戦でポイントを獲得する安定したシーズンとなっている。続いて山口辰也(ホンダドリームカストロールRT)で、ランキング上位をホンダ勢が占めている。

このホンダ勢に対し、ヤマハのエース、中富伸一(YSP&PRESTOレーシング)は今シーズン、2回の優勝を経験するものの、転倒やコースアウトなど結果が残らないレースもあり、ランキングは5位。タイトル争いには絡めないが、その分、思い切ったレース展開が期待される。カワサキの

ディーラーチーム、チーム緑の柳川明は現在ランキング4位。2回の2位入賞が示すように、いつでも表彰台の頂点に立つ可能性は持っている。スズキは、渡辺篤(ヨシムラスズキジョモスリックソン)を中心に参戦を続けているが、前戦の鈴鹿で新たな刺客が送り込まれた。長い間、スズキファクトリーマンシンの開発を手がけてきた秋吉耕佑(ヨシムラスズキジョモスリックソン)だ。7年ぶりの全日本参戦ながらいきなりのポールポジション獲得、決勝ではマシントラブルを抱えながらも8位入賞、実力の片鱗を見せつけた。その秋吉がこの岡山国際にも出場する。

日本列島を大きく覆った雨雲が前夜から中国地方にたれ込め、予選日は朝から雨模様。午前と午後の2回で行なわれた予選は、どちらもウェット路面での走行となった。予選1回目、あっさりトップタイムをマークしたのは秋吉だった。1分42秒700。どのライダーもなかなかタイムを縮めることができない中、秋吉はわずか5周の走行でこのタイムをマークした。最終ラッ

プに、多くのライダーがベストラップをマークしたが、秋吉のタイムを破るライダーは現れず、2番手に小西良輝(プレクサス&HARC-PRO.)、亀谷長純(チーム桜井ホンダ)と続いた。午後からの予選2回目では雨足が強くなり、体調の思わしくない秋吉は走行を見送った。土砂降りの雨の中、小西と亀谷、それに松戸直樹(モリワキMOTULタイガーレーシング)が積極的に走行を続け、この回の上位タイムをマークするが、3人とも1回目の自身のタイムを超えることはできず、予選上位20位までは1回目の予選タイムでグリッドが決まった。秋吉が2戦続けてのポールポジション獲得となった。

皮肉にも、決勝日の天気予報は晴れ、土曜日のリザルトはほぼ破算になってしまう。これもまたロードレースだ。金曜日ドライ走行が短かったため、決勝の予想をするには条件が少なすぎる。一発勝負の第7戦岡山大会になる。

[青木 淳]

楽しみ方いろいろ。 MFJ SUPERBIKEの情報満載



GAORA(CS放送)で全戦放映!!

地上波ローカルTV局でもダイジェストを放映!

ブロードバンド動画サービスやライブムービーなども展開。

詳しくは、情報満載のオフィシャルファンサイト superbike.jp へ!!



雨が明暗を分けた予選。 高橋英倫が4年ぶりのポールポジション!



不安定な天候が明暗を分ける結果となった。予選1回目、A組のセッション途中で雨は止み、その後の走行となったB組では、さらに路面コンディションは回復。予選2回目でも雨足が強くなったため、予選1回目の順位でグリッドが決まる結果となった。さらにA組とB組のコンディションが異なったため、それぞれ頭取りとなり、交互にグリッドに並ぶ。

この難しいコンディションの中、ポールポジションを獲得したのは、予選B組でトップタイムをマークした高橋英倫だった。「今年から自分

で立ち上げたチームで走っているのですが、マシンも変わったし、メンタルな部分でも大変だった。やっとチームとしてまとまってきた。雨では勝ったこともあるし、自信があった。今までは予選で上位につけられていなかったもので、決勝はドライになっても何とかしたい」と高橋。2001年の開幕戦以来、久しぶりのポールポジション獲得だった。不安定なコンディションに強い沼田憲保がA組でトップタイムをマークしセカンドグリッドを確保。サードグリッドに今季からST600を走っている東浦正周がつけ、全日本で初めてフロントロウに並ぶ。昨年の沼田車を駆る、奥野正雄がフロントロウ最後のグリッドにつけた。

一方、ポイントリーダーの安田毅史は、コンディションに泣かされ27番手、何と7列目となってしまった。ランキング2番手の徳留和樹は20番手、ランキング5番手の酒井大作は18番手と共に5列目からのスタートとなる。辻村猛と手島雄介のTSR勢は、それぞれ7、8番手と2列目につけ、やや有利な状況だと言えるだろう。

先週、行なわれたテストでは、辻村が非公式ながらコースレコードを破るタイムをマーク。手島、酒井も好調だったと言う。安田は、最終戦の舞台となるツインリンクもてぎでは、絶対的な自信を持っているが、実力者揃いのクラスだけに、今回は厳しい戦いとなりそうだ。タイトルの方行を左右する一戦となるか?

[佐藤 寿宏]

写真(上)高橋英倫 (下)沼田憲保

横江竜司が雨の予選を制し、 今季初ポールポジション



青山周平がタイトル獲得に王手をかけて迎えた第7戦岡山ラウンド。すでに4勝を挙げ、ランキング2番手の横江竜司に35ポイント差をつけており、今回11位以内に入れば2度目の全日本チャンピオンとなる。

金曜日から不安定な天候に悩まされ、土曜日に行なわれた公式予選は1セッション、レインコンディションで争われた。降り続く雨の中ポールポジションを獲得したのは、横江竜司だった。

「久しぶりのポールポジションですね。ずっと雨

は降っていて、一番雨が弱いときには出せずに残り10分というところでタイムアタックに入った。後ろに周平が来ていたのは分かってたけど、あそこが(タイムを)出すタイミングだった。この週末はドライで走れていないけれど、テストでも調子はよかったので、レースではスタートから前に出ていきたい」と横江。2003年第7戦SUGO以来、実に2年ぶりのポールポジション獲得となった。

周平は、横江についていった次の周に単独でタイムを出し、2番手グリッドを獲得。「難しいコンディションだけれど、いい経験になっている。タイトルのことは何も考えていない。それより、どうすれば決勝でコースレコードを更新できるかで頭がいっぱいになっている」と周平。

3番手グリッドには、前回に続き及川誠人がつけた。「クリアラップがうまく取れなかったことを考えれば上々。シーズン前半が悪すぎたので、今回も表彰台に立ちたいね」と及川。「前回に比べればケガの状態はよくなってきている」という徳留真紀が4番手につけた。2列目には、高橋江紀、石井春希、櫻井大幸、ラタパー・ヴィライローが並ぶ結果となった。また、暫定ランキング4位につけている高橋巧は、第5戦SUGOの事前テストで骨折した鎖骨の状態が悪くなり、今回は欠場を余儀なくされている。

決勝は、コンディション次第では、横江に勝機が見えてくるか? 周平と横江の戦いに、ついていけるライダーは現れるか?

[佐藤 寿宏]

写真(上)横江竜司 (下)青山周平

●MFJ SUPERBIKE EXpress執筆陣紹介●

[青木 淳] 『ライディングスポーツ』編集長。1982年から全日本の取材をしている。自らもレース参戦しているが、目標の全日本参戦はまだまだ先のことになりそう。鈴鹿8耐参戦経験もある45歳。
 [佐藤 寿宏] 名前に“寿”があるため業界でのニックネームが“ことぶき”というめでたいヤツ。モータースポーツジャーナリストの片隅に置いてやってください。今年はMotoGPにも参戦(※ライダーで)。
 [川岸 健二] ロードレース専門誌「サイクルサウンド編集部」に籍を置き、全日本ロードレース取材は今年で6年目。「取材は足で稼ぐ」をモットーに、今日もムダ足を踏んでいる。

地元で初タイトルを決めたい菊池寛幸 vs それを止めたいライバル勢



2005年シーズンは残り2レースとなり、チャンピオン争いが大詰めを迎えている。前半戦をポイントリーダーで折り返した菊池寛幸は、前戦鈴鹿で勝利をもぎ取ったことで、このレースで2位以内に入れば初めてのチャンピオンが決まる。目下2連勝中で、さらに京都を地盤とする菊池にとって岡山はホームサーキットとも言うべき得意中の得意なコースだけに有利な条件は揃っている。しかし大一番を前にした菊池の表情は固く、少なからずプレッシャーを抱えていることが

見て取れた。

菊池以外にチャンピオンの可能性を残しているのは井手敏男、濱本裕基、柚木伸介、仲城英幸、竹内吉弘で、少なくともここでのタイトル決定を阻止し、チャンピオン争いを最終戦まで引っ張りたいというのが彼ら共通の考えだ。その筆頭の井手はオートポリスで菊池を下しており、Feels & テック2にとっても岡山はホームコースでデータは豊富だ。さらに今季2度の表彰台に立ち、前戦もトップ争いを繰り広げた20歳の濱本も「ドライなら自信がある」とベテラン勢の追い落としを狙う。

土曜の予選は、あいにく午前中の1回目から雨の中で行われた。午後の2回目はさらに雨足が強まったため、1回目のタイムでほぼ予選順位が決定している。ポールポジションを獲得したのはディフェンディングチャンピオンの仲城で、菊池は2番手。仲城と同じJhaのトップエンド仕様RS125Rを手にした好調の葛原太陽が続ぎ、森新までがフロントローに並ぶ。

決勝日は晴れと見込まれているが、ドライでも前述のトップライダーたちが先頭集団を形成するだろう。菊池はベテランらしく周囲の状況を考えながらレースを運ぶはずだ。しかし路面状況次第では、このコースを知り尽くしている地元ライダーが優位に立つ可能性もある。その意味で予選6位につけた岡山出身の若手、花房一樹にも注目したい。

[川岸 健二]

写真(上):仲城英幸 (下):菊池寛幸

10/16(日) 決勝日イベント情報

別途、パドックパス(3,000円)を購入すれば、これまでにないスタイルで観戦&レースを体感できます。

激感エリア

1 コーナーイン側の迫力あるシーンが目の前に!

屋上パス

コントロールタワー3Fのテラスを開放。普段は見られない高い位置から観戦してみよう!

タワー1FのORC事務局にて500円で発売中。

※身長140cm以上の方限定。喫煙・飲食は禁止となります。

※イベント等の詳細は、総合インフォメーションでご確認ください。
※イベントの内容は変更、または中止されることがあります。

4月1日より二輪車の高速道路二人乗り解禁!!
タンDEMツーリングでの来場を歓迎いたします。

Good Highway Manners
クルマもバイクも思いやり2倍

キャンギャルオンステージとライダートークショー、そしてチャンピオンライダーも登場するイベント。
メインスタンド上、ミニコース特設ステージで開催。

キャンギャルオンステージ

●時間: 1回目 9:00~・2回目 12:25~

ライダートークショー

●時間: 10:25~10:55

チャンピオン サクスメッセージ

●時間: 16:30~17:00

ライダー、キャンギャル、マシンやピットを間近で見られるピットウォーク。コース上ではレディース&キッズバイクパレードも開催。

ピットウォーク

●時間: 11:45~12:25

※パドックパス(3,000円)、ピットウォークパス(1,500円)のみいずれかご購入いただけます。

全日本ロードレース恒例の先導付きサーキット2輪体験走行

サーキットクルージング

●時間: 16:35~ (走行無料・全決勝レース終了後)

SUPERBIKE SUPPORTERS



あなたの観戦スタイルにあった4種類のチケットで、今年も国内最高峰のロードレースをお楽しみください。
オンラインファンクラブがSUPERBIKE SUPPORTERSとして新しく生まれ変わり、さまざまな特典のついたパスを販売しています



詳しくは、
SUPERBIKE SUPPORTERS事務局
TEL: 0285-45-8465 (AM11:00~PM7:00 月曜定休)
またはオフィシャルファンサイト superbike.jp まで

ミニバイクから世界GPまで
ロードレースのすべてがここにある

R/DING SPORT

毎月24日発売

2005年12月号<No.275>は10月24日発売!

株式会社ニュース出版

CYCLE SOUNDS EXCITING ROADSPORTS MAGAZINE

月刊サイクルサウンズは
毎月24日発売

発行/株式会社ジック 発売/株式会社山海堂

GP125 Class Starting Grid

●予選日:天候/雨 路面/ウェット ●決勝コースイン/10:40 スタート/10:55(18周)

GP125 Class Starting Grid table with 40 numbered entries, each showing rider name, bike model, and lap time.

ST600 Class Starting Grid

●予選日:天候/雨 路面/ウェット ●決勝コースイン/12:40 スタート/12:55(18周)

ST600 Class Starting Grid table with 40 numbered entries, each showing rider name, bike model, and lap time.

JSB1000 Class Starting Grid

●予選日:天候/雨 路面/ウェット ●決勝コースイン/13:50 スタート/14:05(25周)

JSB1000 Class Starting Grid table with 40 numbered entries, each showing rider name, bike model, and lap time.

GP250 Class Starting Grid

●予選日:天候/雨 路面/ウェット ●決勝コースイン/15:15 スタート/15:30(20周)

GP250 Class Starting Grid table with 20 numbered entries, each showing rider name, bike model, and lap time.